

講義名	地域社会学			授業形態	
担当教員	桑原 桃音	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

受講生にとって身近な地域の生活に触れ、地域・都市の問題を知ることから、社会的視点を含んでいきます。本授業では主に教科書を中心として、主に都市問題や地域住民の課題、人と人の距離、排除や貧困、進学・進学の地域格差など、みなさんにとって身近で具体的な社会問題について学び、考えを深めます。実際に調べたり、ディスカッションしたり、自分の地域をよく見てもらったりしながら、考えと学びを深めていきます。

それ以外にも地域社会学の導入として、地域社会に関する主要な概念である、地域、地域社会、コミュニティ、町内会・自治会、共同体など基本的な用語の理解を進めていきます。授業を進める中で、地域社会の様々な変化-都市化、過疎化、グローバル化、自治のあり方等-を解説します。同時に、課題への理解を踏まえ、地域社会に関わる手法についても解説していきます。

到達目標

本講義の到達目標は、
 「社会」という存在が所与のものではないということを理解すること。
 「社会」という学問が、「地域」社会をどのように分析するが理解すること、
 人間の定住生活の場である地域社会の歴史的背景を知ること。
 今日の地域社会における諸問題と新たな地域社会づくりを知ること。
 を通じて「地域社会」を多面的に理解する能力を身につけることにある。

提出課題

- ・毎回授業時に作成したワークシート、クリッカー（Respon等）による課題を提出してもらう。
- ・毎回の課題は300字程度の字数を要する。
- ・クリッカーは授業内で情報共有するので個人情報を書き込まない内容にとどめること。
- ・グループディスカッションを行うこともあるが、内容によってはICT等を活用した双方向ディスカッションなどを課す。たとえば、他の受講生のクリッカー内容を共有し、それらの内容について議論につなげるなど
- ・不定期に特別課題、小テストを課す。また学びを深め、評価を上げたい学生のために発展課題を課す。
- ・授業中半で、中間レポートを課す（授業の進度や受講生の様子を見て中間テストに切り替える場合もある）。中間レポートの未提出によって点数が下がり、単位が認定されない場合があるので注意すること（1500字～2000字を予定）。
- ・最終レポートの内容については講義時に詳細を説明する。ポータルの説明内容だけでは書けないので注意すること（3000～4000字を予定）。また、最終レポートを提出しない場合は授業を「放棄」したとみなし、単位を認定しない。教員からの指示がない限り、締め切り以降の提出はいついそ認められないので注意すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業課題の講評、質問については、次回もしくは次々回の授業時に学生へ伝える。授業課題の講評内容を参考として最終レポートに活かしてもらう。

評価の基準

- ・平常点55%（講義内の課題、不定期に実施する小テスト55%）
- ・レポート45%（中間レポートor中間テスト15%、最終レポート30%）

20分以上の遅刻は欠席扱い。
 履修し、私語、指示のないスマートフォン等の電子機器の利用はいずれも欠席扱い。
 欠席が5回以上になったら単位不認定とする。同様に毎回の課題の未提出が5回以上になったら単位不認定となる。
 次の行為は判明した時点で単位不認定。
 課題やレポート内容にインターネットからの盗作・剽窃があった場合。
 他学生の課題、クリッカー、レポートをコピーして提出した場合（この場合はコピーしたものの/させたものどちらも不認定）。
 ・ともに部分的な盗作、剽窃、他学生の課題内容のコピー&ペーストでも単位不認定。

履修にあたっての注意・助言他

- ・毎回の課題に頑張って取り組むこと。
- ・課題の提出、クリッカーの入力を積極的に行うことが評価につながる。課題の未提出が評価にひびくので注意すること。
- ・文字数が少ない、授業内容をまったく理解できていない、あきらかに指示した資料を確認していない、いい加減な課題は0点
- ・何らかの理由で提出ができない場合は、信ぴょう性書類を用意して必ず締め切り前に教員に連絡をすること。連絡がない場合は受け取らない。
- ・教室内で他の学生が学習する機会、権利を侵害する行為（私語・携帯電話やスマホの使用・授業途中の入退席など）をする者はその日は欠席扱いとし、退席を指示することがある。
- ・各課題、各レポートで盗作・剽窃したものは、それまでの課題点がどれだけよくても、発覚した時点で単位不認定とする。

教科書

・地域・都市の社会学 -- 実感から問いを深める理論と方法.	平井太郎ほか	有斐閣	2,200	978464115095
--------------------------------	--------	-----	-------	--------------

参考図書

・よくわかる地域社会学.	山本努 編著	ミネルヴァ書房	3,080	9784623093533
・社会学で描く現代社会のスケッチ.	友枝敬雄ほか	みらい	2,420	978486015485
・フェミニスト・シティ.	レスリー・カーン 著 東辻賢治郎 訳	晶文社	2,200	9784794973290

その他

- ・講義時に資料とレジュメを配布する。Ryuka Portalを介して配布することもある。
- ・参考文献は適宜指示する。インターネット上のサイトなども利用する。

授業計画

1. イントロダクション
2. 地域を認識する（1） 地域・都市はどのように形作られたか
3. 地域を認識する（2） 災害とコミュニティ
4. 地域に集まる力/世界に広がる力（1） グローバル化とどのように向き合うか
5. 地域に集まる力/世界に広がる力（2） ナショナルなものと地域・都市
6. 地域に集まる力/世界に広がる力（3） ローカル・トラックとは何か
7. コミュニティ・リサーチ 地産地消を事例に
8. 中間テストorレポート、前半まとめ
9. 地域・都市で生まれる社会（1） 都市の公共空間
10. 地域・都市で生まれる社会（2） 都市の不平等はどのように進んでいるのか
11. 地域・都市で生まれる社会（3） エスニシティ、セクシュアリティ、フェミニスト・シティ
12. 地域・都市のこれから（1） 「限界集落」の「限界」はどう乗り越えられるのか
13. 地域・都市のこれから（2） 地域・都市はどこへ行くべきか
14. 後半まとめ
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：指定された参考文獻、雑誌、新聞記事などの資料に目を通す（各約30分）
 次回授業の参考文獻として指定された資料の配布があった場合は授業までに目を通す。
 毎回ではないが、授業内で指定された資料を収集したり、その資料について要約したりしてすることを予習として課す場合もある（資料はweb上で手に入れられるものにする）。

復習：授業時に配布した資料、授業録講時にとったノートを見直すこと。さらに、授業で理解した知識を踏まえて、その内容について考察したことを文章化してノートに200字程度書くこと（各30～1時間程度）。不定期であるが宿題が課されたら、その作業をすること（30分～1時間程度）。

中間レポート、最終レポートともに作成のための資料収集、レポート作成作業に5時間以上は要するので、そのつもりでとりかかると。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義では、地域社会の仕組みや働き、日常生活と文化など、現実社会の問題理解・発見を可能として、よりよい人間社会を創造することができる能力を向上します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

提出された課題やクリッカーの内容について授業内で講評や解説を行う。
 クリッカーを用いて授業内で意見を提示してもらい、それらについては次回以降にコメントや解説をする。
 受講生の知見や考えを深めるために動画やインターネットを用いる。

実務経験の有無及び活用

備考

- やむを得ない欠席の場合の対応について
 - 1) やむを得なく欠席した授業実施後2週間以内に連絡すること。事前にわかっているのは事前連絡が望ましい。
 - 2) 対応方法、提出が必要な課題や書類、課題締め切りを教員から指示する。
 - 3) 連絡後でも構わないので教務部指定の公文書と信ぴょう性書類も提出すること。
 - 4) 指定された締め切りまでに課題を提出すること。
- 病欠で追加課題が提出できるのは、診断書等の信ぴょう性書類の提出ができる場合のみです。